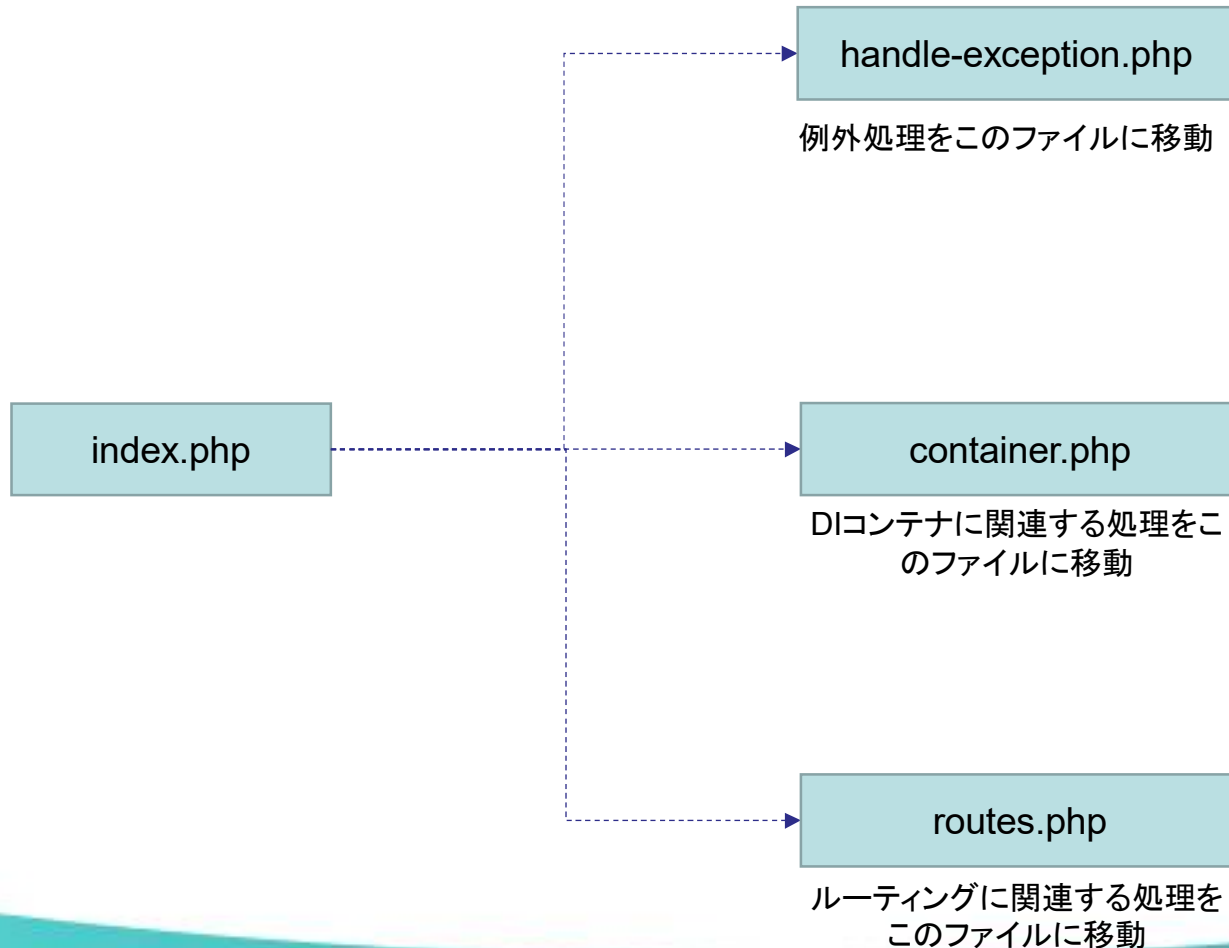


本ステップでおこなうこと

index.phpの処理が肥大化してきたので、ファイルを分けてスリムにします。



requireの性質(1)

require文は、戻り値を受け取ることができます。
以下のrequire.phpを実行すると、「abc」が出力されます。

```
<?php  
$val = require __DIR__ . '/return.php';  
echo $val;
```

require.php



```
<?php  
return 'abc';
```

return.php

requireの性質(2)

クロージャーを戻り値として受け取ることもできます。
以下のrequire.phpを実行すると、「total:12」が出力されます。

```
<?php  
$minusFunc = require __DIR__ . '/return.php';  
echo 'total:', $minusFunc(16, 4);
```

require.php



```
<?php  
return function ($a, $b) {  
    return $a - $b;  
};
```

return.php

今回行うこと

index.php内のプログラム処理が肥大化してきましたので、
requireを使ってスリム化します。

```
<?php
$handleException = require 'handle-exception.php';
$handleException();

$container = require 'container.php';
$container();

$routes = require 'routes.php';
$routes();
```

index.php



```
<?php
return function () {
    // 例外処理
};
```

handle-exception.php



```
<?php
return function () {
    // DIコンテナに関わる処理
};
```

container.php



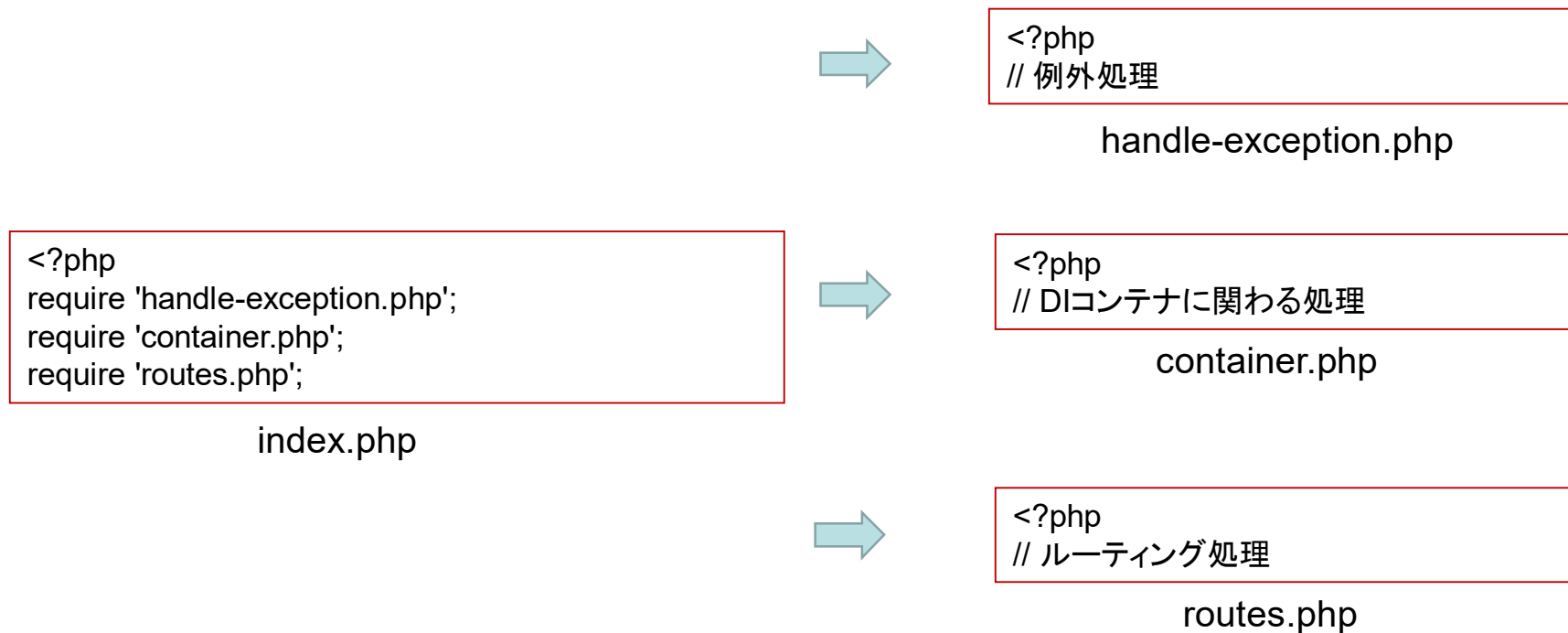
```
<?php
return function () {
    // ルーティング処理
};
```

routes.php

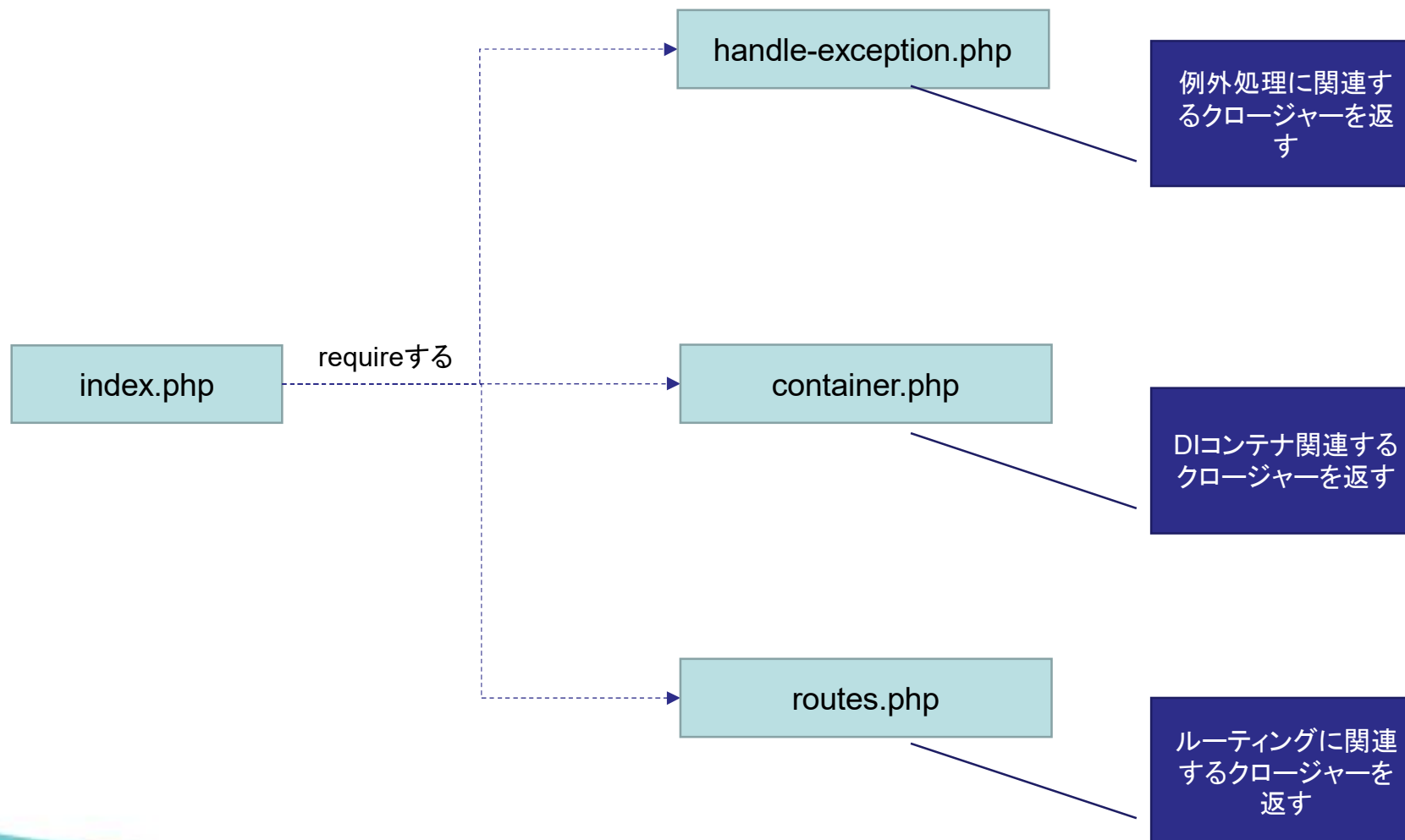
クロージャをはさむ理由

外部ファイル同士で、変数名がバッティングしても問題がないようにするために、クロージャ経由でプログラム処理を実行します。

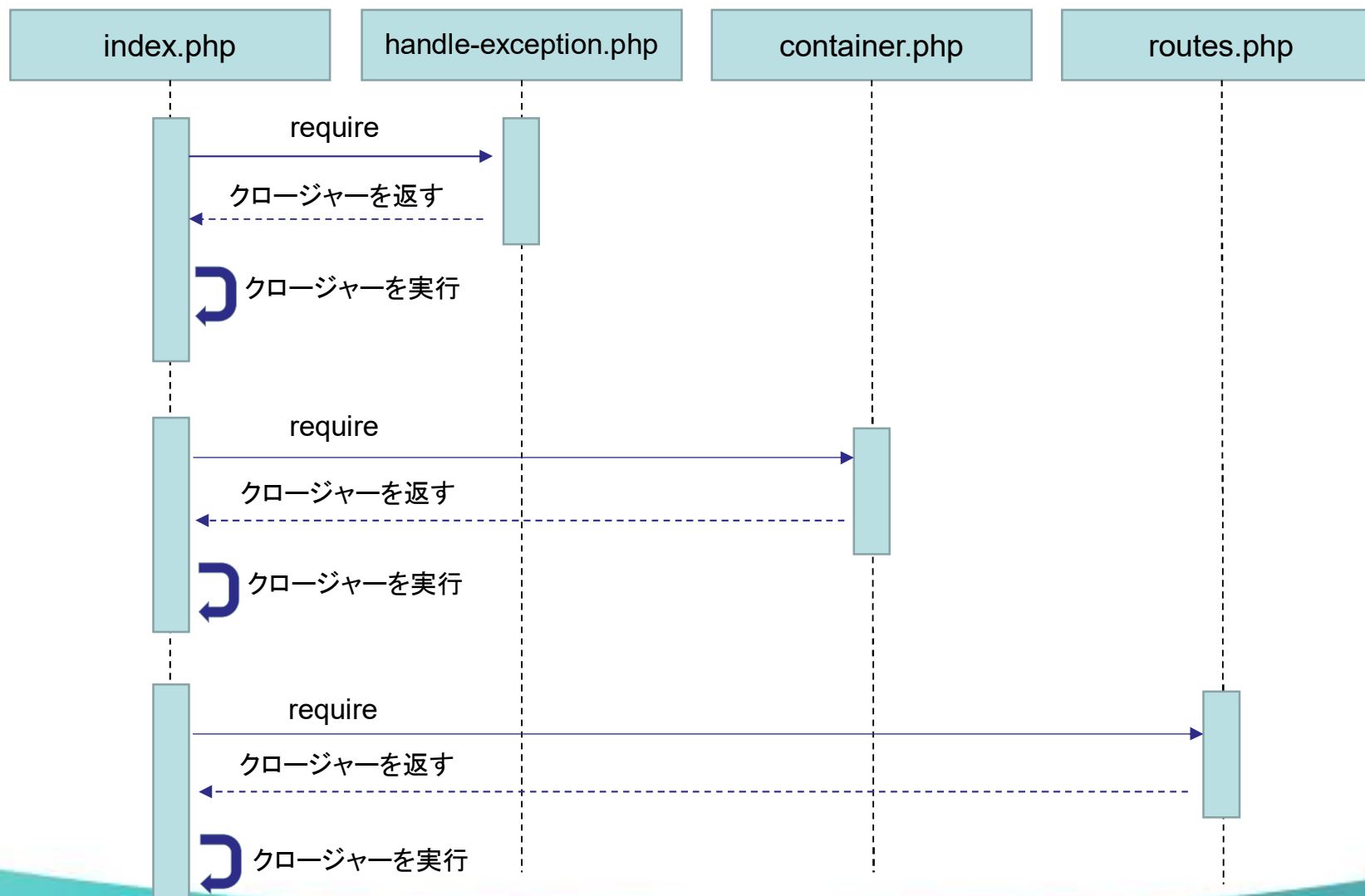
仮に、変数名がバッティングしなければ、このような書き方でも問題は起きません。



本ステップのファイル構成



本ステップの処理の流れ



本ステップの変更ファイル一覧

●追加したファイル

- app/Core/container.php
- app/Core/handle-exception.php
- app/Core/routes.php

●変更したファイル

- public/index.php
→ ファイルを分けてスリムにした